

サルタン系降圧剤による前立腺がん予防効果の検討

近年、本邦における前立腺がん罹患数は急激に増加してきている。それに伴い、全国の地方自治体における前立腺がん検診の実施割合は年々高まっている。前立腺がん検診が行われている自治体のうち、98.9%の自治体では前立腺特異抗原（PSA）単独検診である。PSAが高いことは前立腺がんが疑われる。しかし PSA 高値のみを理由とした経直腸的超音波ガイド下系統的な前立腺生検を行った場合には 50～80%は前立腺癌が検出されないとの報告もあり、PSA 単独検診による特異度は高くはない。経過観察になる場合や、生検結果が陰性であった場合には検査後の慎重な追跡が行われる。PSA 高値だが前立腺がん未診断である高リスク群に対する有効な発がん予防法はなく、未だに治療法が見つからない。潜伏がんが多く、過剰診療の問題を抱える前立腺がんは化学予防が適している。現在、サルタン系降圧剤（ARB）に前立腺がんの予防効果がある可能性が示されており、本研究では ARB による前立腺がん化学予防試験実施のために必要な情報を得るためにレセプトデータを用いた疫学調査を実施する。降圧剤の使用状況別、前立腺がん診断数を比較する。卒業研究では、同レセプトデータを用いたネステッドコホート解析も行い、一般的なコホート解析の結果とネステッドコホート解析の結果を比較し統計的に結果が等しくなる条件を考察する予定である。今回の発表では、本邦における前立腺がんの疫学について紹介し、今後の方針について述べる。

主要文献

Takahashi S, Uemura H., et al. Therapeutic Targeting of Angiotensin II Receptor Type 1 to Regulate Androgen Receptor in Prostate Cancer. *Prostate*, 2012; 72:1559-72